

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	カラフルビーンズ			
○保護者評価実施期間	2026年 1月 9日		～	2026年 1月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28人	(回答者数)	24人
○従業者評価実施期間	2026年 1月 9日		～	2026年 1月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14人	(回答者数)	14人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 25日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	計画作成に広く職員が参加し、計画に沿って支援が行われている。	支援開始前の話し合いで、児童の様子や支援についての共有し、支援の際の注意点や方針は共有している。日々の活動プログラムは、5領域に沿い、児童の支援目標に沿う形で設定されています。	プログラムの実施内容についても、振り返りを行い、固定化しないよう意識していく。新しいプログラムもより積極的に取り入れて、初めての体験を楽しかったで終わらせるような支援を更に増やしていきます。
2	土曜日開所、長期休暇での季節の特別プログラムの実施。	地域の様々な機関と連携し、交流を図りながら、時間がある時にしかできない特別プログラムを実施しています。例えばカラフルフェスタ、やすらぎフェスタ、他機関と連携したクリスマス会や子ども食堂など。	幅広い友だちと交流できるよう、特に他機関と交流する際は、様々な友だちとの仲立ちをより意識して行っていきます。
3	大人数ならではの、色々なお友だちと関わる機会が多いこと。	特に仲の良い友だち以外にも、遊んだり関わったりするチャンスを作るようにしていきます。	個別のコミュニケーション能力向上への取り組みに加えて、友だちの気持ちや個性の相互理解を促すための、具体的なプログラムを実施するなどしていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	人との距離感 地域交流	<ul style="list-style-type: none"> 職員と子供達との距離感が近い 自分で考えて次の行動にうつることが出来るように工夫する。 地域の図書館や公園、イベントなどに出かけた際の情報発信が弱い。 他の放課後デイとの交流の機会と利用日が重ならない児童がいたこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達の自主性、自発性をより重視して、子ども達を待つ対応を心掛ける。 パーソナルスペース等、人との距離感について学習するプログラムを導入する。 地域にお出かけする際の情報発信を強化する。 個人情報保護に十分留意した上で、他の団体との交流についてもできるだけ情報発信していく。
2	保護者への説明など	<ul style="list-style-type: none"> 1日の中で保護者に情報共有する職員と、近くで児童を見ていた職員との間での情報共有不足が考えられる。 保護者会、父母の会等、銘打っていないが、子ども食堂やカラフルフェスタ等のイベントの際、積極的に保護者同士の交流を促す働きかけが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 1日の中で、頑張った点や、良かった点、怪我や注意点など、要点は、送迎を担当する職員、もしくは、お迎えで対応する職員に情報伝達しておくことを徹底する。 保護者同士でお話する時間を交流する機会がある中で設定してみる。
3	非常時の対応	定期的に行われている避難・安全学習や避難訓練等に参加できていない児童もいること。	避難・安全学習や、避難訓練の実施状況を個人情報に配慮しながら積極的に情報発信していくこと。